事例 「すてっぷの会」＆「ひっつきむしの会」

― 茨木市立葦原小学校 ―

1．実践の概要

（１） 学校の様子

子ども一人ひとりにわかる喜びを体験させ、人権を大切にし、信頼と努力に満ちた楽しい明るい学校をめざす。茨木市の南部に位置して、創立３０周年を２年前に迎えた比較的新しい学校である。

（２） 教員･保育士の相互理解の取組み

● 教師間交流

- 幼稚園と保育所の交流‥‥行事、研究保育、参観、一日保育士体験
- 保・幼・小の交流……学校園内研の参観・参加、就学後の子どもたちの様子の交流

● 「すてっぷの会」（幼保小連絡協議会）

月に１回、教員と保育士が子どもたちの様子を話し合ったり、スムーズな就学に向けて子どもたちに身につけさせたい「基本的な生活習慣」、「 学びのための土台作り」（鉛筆の持ち方、社会的生活経験）などについて意見交流をしたりしながら、連携の在り方を考える。

● 「ひっつきむしの会」（幼保連絡協議会）

月に１回、保育士と幼稚園教諭が幼児の様子や保育の実態から意見交換し、就学前統一カリキュラム作成に努める。（下図参照）

資料

■ 人とのかかわりや、学びの基礎となる力を育成 ■（一部抜粋）

5歳 人とのかかわり

- 身近な人に積極的に関わる。
- 友達とのかかわりを深め、共感しながら遊ぶ。
- 思いやりやいたわりの気持ちを持つ。
- 友達同士でルールを決めた遊びを楽しむ。

☆ **社会的生活経験**

- 靴の左右を理解する。
- ひも結び
- おはし、鉛筆の持ち方
- 雑巾しぼり
- ハサミの使い方

→ 社会的生活能力の確立

☆ **きく**

- 絵本・紙芝居
- 呼ばれたら返事する。
- 友達、先生の話を聞く。
- 遊びの話し合い

→ ・その場の状況に応じた聞き方
・相手の話を正しく聞き取り理解する。

詳細は、大阪府教育委員会小中学校課教務Ｇ

http://www.pref.osaka.jp/kyoisityoson/shochu/kyoumu/ver.4/index.htmlをご参照ください。

（３） 生活科「運動会のダンスを教えて一緒に踊ろう」

２年生と幼稚園の子どもたちが体育館に集合して、予め教員が決めておいたグループ同士２～３人ずつが対面した。

このグループは初めての顔合わせだが、挨拶をすませた後、子どもたちはすぐにうちとけて、グループごとにダンスの身支度を整え始めた。小学生は、自分たちが先生に教えてもらったことを思い出し、見本を見せる、指示するというような役割分担を決めて教えていた。

最初恥ずかしそうにしていた子も、園児達の前ではとてもいい笑顔で大変楽しそうに教えていた。ダンスは同じパターンの繰返しがあるので、一通り教え終わり、何度か曲が流されるうちに、園児も楽しく踊れるようになった。授業が終わってからの休憩時間には、幼小の子どもたちが入り混じって楽しく遊んだ。

その他の交流

- ５年生と園児の水泳
- ５年生と園児が一緒に遠足
- 給食交流は５年生と１回
- 生活科の交流は年に３回
- ３学期に体験入学

２．連携のポイント

- 子どもたちの人間関係における課題解決の方策として、異年齢交流を位置づけ、その効果を検証しながら積極的に幼小連携に取り組んでいる。
- 幼保小の教員のネットワークができ，段差解消にむけて積極的に話し合う中で，連携して就学前統一カリキュラムを検討している。

校長先生にインタビュー

人と人とのつながり

幼小連携が始まったころは、幼稚園のどこを見ればいいのか、来てもらっても何をしていいかわからない状態でした。色々取り組む中で、お互い教員が顔見知りになり、普段から気軽に子どもたちの話ができるようになりました。

本校区の自慢は、校長、園長、担当者の４人がとても仲がよく、頻繁に連絡を取り合っていることです。それぞれの学年がばらばらに幼稚園や保育所に連絡を取れば、幼稚園などは混乱して大変です。窓口になって連携をコーディネートする人が必要だと思います。

もちろん、私は幼小連携ばかりをやれるわけではありませんが、生徒指導で校区内を走り回る中で、連携の仕事も、不登校防止の仕事もつながってきます。色々なネットワークがつながると仕事もやりやすく、何より子どもたちがよくなっていく手ごたえがあって仕事を楽しくやっていけます。

不登校や問題行動への対応にも

本校は、学校教育自己診断で子どもたちの自己肯定感がやや低い傾向にありました。幼保小連携を繰り返すことによって、小学生は幼児を世話することに満足感を覚え、自尊感情を高めていきました。

また、不登校は初期対応が一番！１ 年生で学校への行き渋りが出た時は、すぐに就学前の様子などの情報を集めることができ、適切な初期対応ができます。

これも、日頃から丁寧に教員同士の交流ができているからだと思います。